

2026年2月17日  
瀬戸内漁業協同組合  
瀬戸内町  
株式会社農林中金総合研究所  
農林中央金庫

## 日本初となるマングローブ由来のJブルークレジット®認証取得について ～水産業・地域の持続可能性向上に向けた多様なステークホルダー連携の成果～

瀬戸内漁業協同組合（代表理事組合長：上田哲生、以下「当漁協」）、瀬戸内町（町長：鎌田愛人、以下「当町」）は、株式会社 農林中金総合研究所（代表取締役社長：高義行、以下「当社」）、農林中央金庫（代表理事理事長：北林太郎、以下「当金庫」）の支援を受け、日本初となるマングローブ由来のJブルークレジット®<sup>1</sup>の認証を取得したことをお知らせいたします。

### 1. 背景

当漁協と当町は藻場やマングローブの造成による沿岸生態系の保全・再生を通じたブルーカーボンプロジェクトに取り組んできました<sup>2</sup>。マングローブや藻場は様々な生物が生まれ、育まれる場所であり、また炭素を吸収し、固定する機能をもっています。加えて、児童へマングローブや藻場の造成や観察等の体験学習の機会を提供することで、地域の未来を担う子どもたちへの環境教育にも貢献しております。

藻場やマングローブがもたらす多面的な利益（コ・ベネフィット）の実現は、持続可能な水産業や地域のために不可欠であり、当漁協と当町はこれをさらに加速させていくために、「瀬戸内町 ネリヤカナヤの海 推進協議会（以下、「協議会」）」を2024年に設立し、漁業者、行政、地域にとどまらず、多様なステークホルダーとの連携を図ってきました。

### 2. Jブルークレジット®認証取得等の取組みと意義

当漁協と当町は多様なステークホルダーとの連携に向けて、取組みの对外訴求や価値の可視化等に取り組んできました。そのなかで当社と当金庫は、協議会の戦略策定に加えて、今回造成対象となった藻場やマングローブを含む複数の海域・周辺部の自然共生サイトへの認定（2024年11月認定）<sup>3</sup>、および本件Jブルークレジット®の認証等を支援しました。

こうした成果は、漁業者や地域が古来より育んできた藻場やマングローブの造成にかかる知見や取組みが、足元で重要性を増しているネイチャーポジティブやカーボンニュートラル、そして地域活性化の文脈で再定義、再評価されるものと考えられます。

特に今後気候変動による気温上昇が避けないとされる中で、本邦における気候変動緩和策であり、適応策でもあるマングローブ造成の取組みの重要性は高まっていくと想定されます。今回の日本初となるマングローブ由来のJブルークレジット®認証取得は、持続可能な漁業、台風被害等に対する防

<sup>1</sup> 国土交通大臣認可法人である「ジャパンブルーエコノミー技術研究組合」（JBE）が発行するカーボンクレジット。認証の詳細はJBEのHP（[リンク](#)）のとおり。なお、奄美大島・宇検村マングローブ植林プロジェクトも同時にクレジット認証を取得。

<sup>2</sup> 瀬戸内町における藻場、マングローブ造成の取組み詳細は瀬戸内町のHP（[リンク](#)）のとおり。

<sup>3</sup> 自然共生サイトへの認定については、環境省のHP（[リンク](#)）のとおり。

災・減災、そして次代を担う子どもたちへの教育の場としてのマングローブ造成の取組みの価値を定量的に評価するものとして意義深い成果であると、私たち4者は認識します。

#### 本件の成果と意義



- ◆ 藻場・マングローブの造成による水産資源の回復・保全
- ◆ マングローブによるクロマグロ養殖場への栄養分供給
- ◆ 藻場・マングローブによる炭素吸収・固定を通じた気候変動の緩和・適応



- ◆ マングローブによる波の衝撃の吸収・減衰効果による町の安全・安心の確保

地域と本邦の持続可能性に資する社会実装と知見蓄積



- ◆ 藻場・マングローブの造成、観察等の体験を通じた次世代への環境教育、海洋の果たす役割の意識醸成

### 3. 今後の展開

私たち4者は連携を継続し、漁業者が主体となる藻場、マングローブによるブルーカーボンの取組みを深化させ、気候変動の緩和および適応、生態系の再生・保全、持続可能な地域づくりを推進します。

### 4.瀬戸内町および農林中金グループの本件に対する思い

瀬戸内町（瀬戸内町・瀬戸内魚業協同組合）

今回の認証は、地域の海を守り、未来へつなぐ大きな一步です。漁業者や高校生、行政、企業が一体となって取り組んだ成果が認められたことを誇りに思います。今後も持続可能な水産業の振興と環境保全の両立を図り、豊かな海づくりを推進してまいります。

農林中金グループ（農林中金総合研究所・農林中央金庫）

本件は本邦にとって重要性を増す、マングローブの造成やその知見蓄積に資する取組みと認識しています。本件のような持続可能な農林水産業・地域の実現につながる取組みの推進を通じて、生産から加工・流通・消費までに至る食農バリューチェーン全体を持続可能なものに移行（トランジション）させる「食農バリューチェーントランジション」を目指しています。今後も農林水産業と地域の基盤強化に資する取組みも含めて、食農バリューチェーントランジションを推進してまいります

以上

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

瀬戸内町 水産観光課 水産振興係  
(禧久) Tel : 0997-72-1114

株式会社 農林中金総合研究所 コーポレート企画部  
(宮崎、千葉) Tel : 03-6362-7700

農林中央金庫 経営企画部 広報コミュニケーション班  
(藏方、丹羽) Tel : 03-6362-7172